

# メディアコミュニケーション演習/

## Media Studies in English と日本語

担当教員: 志柿浩一郎 Instructor: Koichiro Shigaki

Image Creator: Kittisak\_Taramas | Credit: Getty Images/iStockphoto

# 今日の予定

- 発表順番決め
- 英語の歌を唄う練習 10分程度
- **グループ活動:** ディスカッション訓練1として、決められたテーマについて、話し手を聞き手に分かかれ、会話をなんとかして5分続ける。
- **グループ活動:**発表の内容を詰めていく作業

## 英語の歌を唄う

**This is must! It is required!**  
**You hate to sing? I don't care. At least,**  
**move your mouth and say something**

ゼミ 10回目 (06月28日)

ゼミ 11回目 (07月05日)

ゼミ 12回目 (07月12日)

ゼミ 13回目 14回目は予備日

グループとというか

ペア活動1に関して解説

- **テーマ:**スポーツ、ゲーム、ファッション、最近流行っているもの、音楽など、身近なもので自分が知っていることについて英語の会話を作る
- **応用編（自分の考えを言う）:**大学にきてよかった点や悪かった点、文句も含めた授業情報共有、メディア学科に関して思っていること（に関する会話を作ってみる）

# グループ活動2

# テーマが具体化したら

決めたテーマで...

- 問題点や主要な論述する点を設定する（おおよその主旨を決める）
- 仮の結論（仮説）が出せるようであれば出す（人文系は出しづらい）
- 概要や概論がわかるものを探す（そこから全体像を理解する）
- 引っかかる点、自分の問題意識が何かを考える。それに近い問題を論じている論述を探す
- 具体的な発表内容をつめていき、役割をきめていく



# 評価方法（備考）

## 備考

- 1.自分の考えたことをなるべく言う
- 2.「先生の期待しそうな答え方」というのは考えない。当たり前障りのことも言わない。（先生の授業はつまらない、面白くしろと言われて吹っ切れた。昨年、東洋大の先生や基準にあわせようとしたけど。表面的なことや優等生みたいなこと言ったら印象は悪くなるので、評価は下がる可能性あり。ただし、とりあえず頑張ったってことで、悪くも良くもない「C」評価)
- 3.自分の考えを言う場合は、筋が通るようにすること。= 論理的にまとめる=理由、説明、根拠を示す

# 発表内容の肉付けをする

1.発表の構成を考える

2. メインポイント、主張したいこと、論じたいこと、自分の考えを言う（～思いました、考えました…は小学生のように聞こえるから先生としては辛い = 評価ダウン）

3.面白くする（先生が皆さんのような学生から言われたこと…面白くするって何やねん？先生お笑い芸人じゃないのだから？あんたの面白いって基準なに？）

4. 先生の基準: オリジナリティ、ヘエ～そうなんだって思える、なんか意外、聞いてみようって思えるもの

5. 何もなく、単にこなして、大学で過ごすなら、正直あなたのためにはならない。何もしないは、最悪。大学に対して文句言う資格なし。